

性的マイノリティについて理解する

① はじめに

- 「かながわ人権施策推進指針（改定版）」には、「11 様々な人権課題」において、「性的マイノリティ〔同性愛者、性同一性障害者や自己の性別に不快感を感じる人、インターセックス（先天的に身体上の性別が不明瞭であること）の人〕への偏見や差別意識」といった人権にかかわる問題が示されています。
- 神奈川県では、平成 24 年 11 月、人権男女共同参画課長通知「性同一性障害により戸籍上の性や氏名を変更した方からの資格・合格証明書等の発行申請に対する取扱い等について」が出され、戸籍上の性や氏名を変更した方から資格・合格証明書等の発行申請があった場合には、戸籍謄本等により性や氏名の変更を確認し、その内容により証明書等を発行するなど、性同一性障害の方の人権に配慮した対応をすることが求められています。
- 平成 25 年度、文部科学省が「学校における性同一性障害に係る対応に関する状況調査」を実施し、平成 26 年 6 月には調査結果が公表されました。この調査結果を踏まえ、平成 27 年 4 月、文部科学省初等中等教育局児童生徒課長通知「性同一性障害に係る児童生徒に対するきめ細かな対応の実施等について」が出され、平成 28 年 4 月には教職員向けの周知資料※が各学校に配付されました。

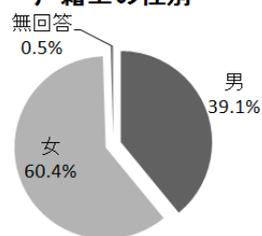
「学校における性同一性障害に係る対応に関する状況調査」（文部科学省）

- 対象学校：国公立の小学校、中学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校
- 報告件数：合計 606 件（戸籍上男・女の両方を含む）

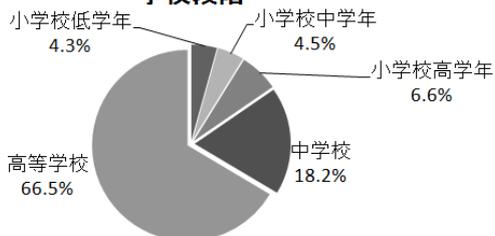
※ 報告は、児童・生徒本人が性別違和感を持ち、かつ児童・生徒本人又は保護者が性同一性障害であるとの認識を有しており、「児童・生徒又は保護者がその児童・生徒本人の自己認識を学校の教職員に開示している」場合であり、児童・生徒本人及びその保護者の心情の尊重を最優先事項とし、回答することを望まないケースについては報告を求めている。

606 件の内訳

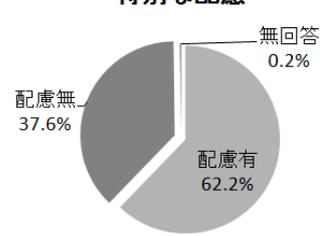
戸籍上の性別



学校段階



特別な配慮



特別な配慮の事例等、詳細な調査結果は、文部科学省のホームページに掲載されています。

性同一性障害 状況調査

検索

- 県立学校においては、女子生徒の制服にスカートとスラックスの両方を用意する学校や、小・中学校においては、児童・生徒の名前を呼ぶ際、「〇〇君」「〇〇さん」のように男女で区別することなく「〇〇さん」に統一するなど配慮している学校があります。
- こうしたことから、各学校では、教職員一人ひとりが「性同一性障害を含む性的マイノリティ」について理解し、悩みを抱える児童・生徒に寄り添い、全体で支援を進めることが大切です。



※ 「性同一性障害や性的指向・性自認に係る、児童生徒に対するきめ細かな対応等の実施について（教職員向け）」

② 性的マイノリティとは

世の中には生まれもった性（体の性）と心で感じている性（心の性）が異なる人、一致しない人がいます。また、性的指向（どんな性に魅力を感じるか）もすべての人が「異性愛者」とは限りません。自分と同じ性に魅力を感じる「同性愛者」や男性にも女性にも魅力を感じる「両性愛者」、性愛的な関係を求めない「無性愛者」もいます。

社会的には少数派のそういった人たちのことを「性的マイノリティ」といいます。

性的マイノリティの κατηγοリーを表すときに使う言葉として、「LGBTQ」があります。「L」「G」「B」「T」「Q」はそれぞれの言葉の頭文字です。

「L」… レズビアン →女性同性愛者。女性で女性を愛する人。

「G」… ゲイ →男性同性愛者。男性で男性を愛する人。

「B」… バイセクシュアル →両性愛者。愛する人が同性の場合も異性の場合もある人。

「T」… トランスジェンダー →生まれたときに法律的社会的に割り当てられた性別とは異なる性別を生きる人。自分自身が認識する性別と身体の性別が一致しない人のことを指す医学上の診断名「性同一性障害」より広い概念で、トランスジェンダーの人の中には、性同一性障害の診断を受けていない人もいます。



「Q」… クエスチョニング →自分の心の性がよくわからなかったり、どの性別が好きなのか迷ったりしている人。

電通ダイバーシティ・ラボ LGBTQ調査 2018 (調査時点ではLGBTについて調査)

平成 30 年 (2018 年) 電通ダイバーシティ・ラボが実施 (インターネットによるアンケート調査)

対象: 全国 20 歳~59 歳男女個人、約 6 万人

結果: **LGBT**の出現率は**8.9%**。つまり **約 11 人に 1 人**の割合。(1 クラスに 3~4 人)

LGBTの学校生活実態調査 (2013) (調査時点ではLGBTについて調査)

平成 25 年 (2013 年) 民間団体「いのちリスペクト。ホワイトトリボン・キャンペーン」が実施

対象: **LGBT**当事者及びそうかもしれないと思っている 10 歳から 35 歳で、小学校から高校の間、主に関東地方で過ごした方 (回答数 835 人、条件に合致した回答 609 人について分析)

結果:

LGBTであるかもしれないと気がついた時期

「小学校 6 年まで」31% 「中学校 1 年から 3 年」39% 「高校 1 年から 3 年」22% 等

自分がLGBTであることを打ち明けた相手 (複数回答可)

「同級生」72% 「同年代の友人 (部活の友人)」35% 「担任の教師」13% 「養護教諭」14% 等。一方、「誰にも話していない」39%

いじめや暴力を受けた経験 (複数回答可)

「身体的暴力、言葉による暴力、性的な暴力、無視・仲間はずれのいずれかを経験した」68%

いじめや暴力を受けたことによる影響 (複数回答可)

「学校に行くのがいやになった」43% 「人を信じられなくなった」37% 「自殺を考えた」32% 「クラスで孤立した」28% 「わざと自分の身体を傷つけた」22% 等

ゲイ・バイセクシュアル男性の健康レポート 2

平成 19 年 (2007 年) 日高庸晴ほか

対象: 日本のゲイ/バイセクシュアル男性 (有効回答数 5731 人)

結果: **自殺を考えたことがある人** 65.9%

自殺未遂をしたことがある人 14.0%

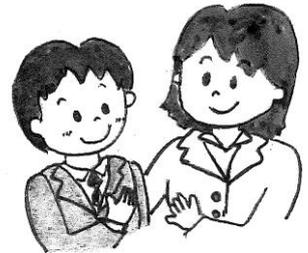


③ LGBTQの児童・生徒が安心して過ごせる学校とは



- ◎ 「『様々な違い』も『個性』と考え、認め合う」ことを積極的に発信する。
 - ・ LGBTQに限らず、「違いを認め合う」というメッセージを日頃から発信する。
- ◎ 図書室や保健室等に、LGBTQに関する本を置いたり、ポスターを貼ったりする。
 - ・ 「学校はLGBTQについて理解している」ということを伝える。
- ◎ 教職員はLGBTQの生徒がいるかもしれないことを踏まえて、注意深く言葉を用いたり、行動したりする。
 - ・ LGBTQを否定するような言動は慎む。
- ◎ 「女」または「男」以外の選択ができるよう、できるところから環境を整える。
 - ・ トイレ、更衣室、男女別の制服など、困っている生徒がいることを踏まえ、配慮できるところから整える。
- ◎ LGBTQをからかう発言や差別する発言を許さない。
 - ・ LGBTQについて、肯定的に捉えていることを伝える。
- ◎ カミングアウトの強制はしない。カミングアウトしてもよいし、しなくてもよい。
 - ・ 当事者を取り巻く環境や人間関係に十分配慮する。

何より重要なのは、教職員がセクシュアリティの多様性について認識を深め、LGBTQについて理解し、LGBTQに対する偏見のないメッセージを児童・生徒に伝えることです。



④ 児童・生徒からカミングアウトされたときの留意点

- ・ 話を最後まで聞く。また、話してくれたことに対し、「よく話してくれたね。ありがとう」と伝える。
 - ・ 困っていることやニーズを十分に聞き、対応を一緒に考える。（すべてのニーズに応えられるわけではないことを伝える。）
 - ・ 児童・生徒が既に誰に話しているか、また自分は誰に話してよいかを確認する。特に、保護者に対するカミングアウトについて、本人の意思を確認する。
 - ・ 相談した児童・生徒の個人情報の取扱いに十分留意する。
 - ・ 外部機関との連携を図る。また、必要に応じて外部機関を紹介する。
- ※ 「性同一性障害者への対応」、「同性愛者への対応」はこうすべきである、といったマニュアルはありません。同じ性同一性障害者でも、何に困っているのか、どのような対応を望んでいるのかは、一人ひとり違います。だからこそ、児童・生徒一人ひとりと対話をしながら、一緒に考えることが大切です。

⑤ 当事者等の声

トランスジェンダー当事者

俺は苦しい思いを「自傷」「死にたい」という言葉と行動で表現してきた。でも、本当の俺は自分の気持ちから逃げただけ。自分の気持ちに気づくのが怖かった。自傷にはそんな意味合いがあったのかもしれない。馬鹿なことしたな。これから少しずつだけ俺の体と心を大事にしたい。体と心はうまく噛み合っていないけれど、心の声を大事にして俺らしく生きていこう。

バイセクシュアル当事者

高校生の時、同性の友達と話していて、急にドキッとした。自分の感情に驚き、あわてて保健室にかけこんだ。先生にそのことを相談すると、「人を好きになることは素敵なこと」と言われ、安心した。

トランスジェンダー当事者と関わった養護教諭

自分らしく生きることの難しさ、自分らしく生きていける社会をつくっていくことの大切さを当事者の生徒から学んだ。感性を磨き、思いを受けとめ、一緒に考え話し合っていく過程が大事だと思う。

⑥ その他

□ LGBTQ情報・支援団体

認定特定非営利活動法人 SHIP (SHIP にじいろキャビン)

<http://www2.ship-web.com/>

教職員向け情報サイト

<http://www3.ship-web.com/>

SHIP ほっとライン 045-548-3980 (相談専用) 毎週木曜 19:00~21:00

特定非営利活動法人 ReBit

<http://rebitlgbt.org/>

性的マイノリティ派遣型個別専門相談 かながわSOGI派遣相談

問合せ先 神奈川県福祉子どもみらい局人権男女共同参画課 045-210-3637



□ 学習教材

人権学習ワークシート集VI—人権教育実践事例・指導の手引き(高校編 第16集)—

P.87~P.94 12 セクシュアリティは人それぞれ!~LGBTQについて考えよう~

人権学習ワークシート集—人権教育実践のために 第14集(小・中学校編)—

P.52~P.54 15 性的マイノリティの人権「性的マイノリティとは?」

P.82~P.88 5 性的マイノリティの人権「性的マイノリティについて考える」

□ 視聴覚教材(DVD)

「思春期の恋バナ」(かながわレインボーセンターSHIP制作)

※ 県立学校に、平成24年3月配付済み

「セクシュアル・マイノリティ理解のために ~子どもたちの学校生活と場所を守る~」

(“共生社会をつくる”セクシュアル・マイノリティ支援全国ネットワーク)

※ 行政課人権教育グループで貸出し可



神奈川県 教育委員会教育局行政部行政課人権教育グループ

横浜市中区日本大通 33 〒231-8509 電話 (045) 210-8087 (直通)

平成27年1月 発行 平成31年4月 第3刷